

聞いて、訪ねて、思いをさせて… 語り伝えられた吉備路のロマン。

吉備総社・伝説絵巻

訪ねてごらん、

桃太郎のふるさと吉備路。

伝説どおりの山が、川が、
史跡がそこにある。

ここは物語の宝庫、
好きな時代を訪ねてごらん。

◆桃太郎伝説ここにあり

吉備津彦命の温羅退治

むかしむかしの話じゃ。

吉備国に温羅という鬼は恐ろしい鬼がおつてのう。西国から

都へ送る荷物を奪ったり、

女子供をさら

つたりして、

人々を苦しめておつた

んじや。この温羅の

娘城がいます。

鬼ノ城じや。温羅の

乱暴ぶりを聞いた大和朝廷は武勇で知られる

五十狹舟彦命(吉備津彦命)を温羅退治に

つかわした。命は吉備の中山に陣を構える

さあ、合戦の始まりじや。命は矢を打って打

って打ちまくる。けれども温羅もさ

も、岩を投げ返して返し、投げ返して

返して、矢は岩に当た

って途中で落ちてしまっ

た。これは、勝負はつきま

らにない。ところがあ

る日、困りはてた命に往吉

大明神からこんなお告げがあつた。



二度に二矢をつがえて打て、

一矢は食いあい、一矢は当た

このお告げどおりに命が

二本の矢をつがえてじよ

と打つたところ、一本はまた落ちて落

されたんじやが、もう一本はみごと温羅の左目

に命中じや。真っ赤な血を流して温羅は逃げた

逃げた。流れた血は血吸川になった。温羅は

キジに姿を変えて山へ逃げた。命はツカにな

つてこれを追う。温羅は今度は鯉にな

つて血吸川に逃げ込む。命は鯉にな

つて追いつき、どうもつかまえたところ

が鯉喰神社じや。さらし首にしてめでたし

めでたしと思ひや、なんとこの

生首が夜になると気味

の悪い声で泣きわ

めくた

ある夜、命の

枕元に温羅が

現れ、こういふた。

「ワシの首を吉備津神社のかまどの下に埋めて

くれ。そうすれば釜を鳴らして世の吉凶を占

つてしんせよ」頼むを聞き入ると泣

き声はヒトリとやんだ。これがいまも続

いている吉備津神社の鳴釜神事のお

りじや。どこかで聞いたよ

うな話じやとて、桃

太郎の鬼退治はこの話

がもとになったとい

われとんじや。

◆名勝豪溪で出会った世捨人

豪溪仙人

江戸時代の豪溪というたらのう、道もない山深い谷淵だったんじやある日、こへ狩りにきた池田家の家臣が道に迷い、ひとりの仙人と出会った。この仙人、ワシは南北朝のころこへ逃げこんだ世捨人じや」といふから家臣は驚いたのなんの。飛んて帰って藩主に報告し、ごちそうを

ぎょうさん持つて

再び仙人を訪ね、夜を徹して語りあかした。ところが仙人は

はそれまで草木の実などしか

食べていかなかったせい、

このごちそうがアツに

なったんじやうのう。

暖きこわして、たいそ

う苦しんだぞうな。

◆今も伝わる古代のロマン

黒媛と仁徳天皇の悲恋物語

黒媛はその名のとおり、黒髪のと豊かな美しい娘で、仁徳天皇に召し出され、大和の宮殿にはえておつたんじや。ところが、

天皇があまりに可愛がるもん

じやから皇后からねたまれてのう、

とらにう生まれ故郷の吉備国へ逃げ帰つて

まった。それで、天皇は恋しさのあまり、淡路

へ行くといつわつて黒媛のもとを訪ねしはし

仲むつまじいときを過ごされたぞうじや。

でも、天皇はやはり皇后のもとへ帰らねばなら

ん。恋の切なさ、悲しさを詠んだふたりの

歌はいまもこの

地に残されてる。

◆画聖、雪舟の修行時代

雪舟とネズミ

宝福寺の小僧、雪舟は修行もせずに絵ばかり描いておつた。みかねた和尚はこうしめに雪舟を柱にしばりつけた。しばらくして和尚が縄を解きに行つてみると、一匹のネズミが今にも雪舟の足先へかじりつこうとしておつた。あわてて追いつかぬとするが、それは雪舟が涙を絵の具がわりに足で描いたネズミじやつた。和尚もこれには感心して、うとらとら雪舟が絵を描くことを許した。はれて絵の修行にうちこんだ雪舟はやがて人々から画聖とまで呼ばれるようになったんじや。

◆井山宝福寺仏殿の秘密
水を飲む龍

宝福寺の仏殿に行つてみるがええ、天井に大きな龍の面が描かれてるうが。この龍はな、むかしは夜になると外に出て、下の白蓮池の水を飲むもんで、村人に恐れられておつたんじや。そこで村人は考えて、龍の目に釘を打ちつけた。これ以来、龍が外に出て水を飲むことはなくなったといふことじや。



備中国分寺

奈良時代、聖武天皇の発願によって全国に建てられた国分寺の一つ。南北朝時代に焼けて、一時廃寺になっていたが、江戸時代後期に再建されました。境内の五重塔は岡山県内唯一のもので国の重要文化財に指定されています。アカマツ林におおわれた丘陵地のほは中心にあり、吉備路を代表する景観として、絵、写真の題材にも多く取り上げられています。

備中国分尼寺跡

国分寺同様、聖武天皇の発願によって建てられ、尼僧たちにより運営されたお寺の遺跡。アカマツ林の中に九い礎石が整然と残り、ところどころ土塀の名残もとどめています。寺域は東西一〇八m、南北二五五mに及び、その規模は奈良の法隆寺など、都の寺院にも匹敵する巨大なものです。最も栄えた平安時代の壮麗さを今もうかがい知ることが出来ます。

つじせの塚古墳

備中国分寺と備中国分尼寺跡の中間にあるのちに面した小高い丘陵地で、全長一〇〇mを超す前方後円墳がそで、全長約二〇mの巨大な横穴式石室は、奈良の石室古墳の石室とほぼ同じ大きさ。貝殻石灰岩でつくられた同形石棺が納められています。以前は仁徳天皇との恋物語で知られる黒媛の墓とも伝えられています。

作山古墳

全長二八二m、全国でも十番目に大きい前方後円墳。五世紀初めに築かれたもので、岡山の造山古墳に次いで吉備地方で第二位の規模を誇ります。

総社宮

備中国の三四社の神々を一つに祀った社で、現在の総社市の地名の由来にもなっています。社殿と同様、古代の姿を今に残す三層式庭園が、優雅な美しさを醸し出しています。また、拝殿には岡山松茸や大原春舟などの絵馬が奉納されています。

伝備中国府跡

国府とは、奈良、平安時代にかけて設けられた各国内の政庁。総社市金井戸地区は「国府」にまつ地名が数多く残っていることから、有力な候補地と考えられています。

秦廃寺

建てられたのは七世紀前半の飛鳥時代といわれる岡山県で最も古い寺院の跡。現在は巨大な花崗岩の心礎が残っています。寺域は東西一町(〇九m)、南北一町または一町半に及んだと推測され、かつては相当な大寺院があったと考えられています。

鬼ノ城

標高約四〇〇mの鬼城山の山頂付近にあり、巨大な石垣や甕が延々約二、八kmも続く古代山城です。吉備津彦命の温羅退治の伝説に登場する鬼は、この鬼城根にしたといわれています。城内は約三十haに及び、その構造などが次第に明らかになっており、西門や角楼などの復元や北門の遺構を生かした整備(表示整備)が進められています。築城の時期は七世紀後半頃といわれています。この鬼ノ城から新山、岩屋と続く連山は、平安時代には山岳仏教が盛んなところで、眼下には吉備路の野山はもろちん、遠く瀬戸内海、四国の山々を望むことができます。

鬼の釜

口径一八五cm、高さ一〇五cmの巨大な銅鉄製の釜で、置かれている場所が鬼ノ城に近いことから、伝説とも相まってこう呼ばれます。かつて、この地にあった寺院で使った湯釜ではないかと考えられています。

岩屋寺

鬼城山の北に建てる山岳寺院跡の総称。最も栄えた時代には、その規模は高野山にも引けをとらなかつたといわれますが、現在は無住の観音院がたった一坊残っているのみです。この鬼の差し上げ岩と呼ばれる洞窟に、温羅が住んでいたといわれています。

井山宝福寺

画聖・雪舟が少年時代に修行した禅宗のお寺。瀧でネズミを描いた伝説で有名です。静かな山間の地にあり、境内には山門、仏殿、方丈、庫裏、鐘堂、東司の七堂伽藍がそろうた本格的禅宗様式のお寺です。臨済宗東福寺派の中本山で、地方にある禅宗寺院としては、まれに見る大寺の風格を漂わせています。夏の晩涼座禅、秋の紅葉が有名です。

名勝豪溪

紅葉の見事さでは県下でも屈指の名勝。高梁川の支流、植谷川の兩岸に天柱山、剣峰と数多の奇石、絶壁がそびえ立ち、清流、木々の緑と秋の美しい深谷を見せつけています。秋の紅葉をはじめ、四季折々の風情がある。雪舟、広重、与謝野晶子などの文人墨客も、その美しさをたたえています。

福山城跡

室町幕府が開かれる少し前(一三三六年)、この地を三日三晩にわたたり、足利直義(足利尊氏の弟)率いる三〇万の軍と、福山を守る後醍醐天皇方の新田義貞の武将・大井田氏経の五〇〇の軍との間に激しい攻防が行われていました。標高三二mの福山は、古代より山岳仏教の寺院・福山寺があり、山頂部には平坦化された寺域と礎石がみられます。福山はこの寺を改築して岩にしたため、いわくつくりの門の跡・土塁・井戸跡のほか、寺院の古瓦片や礎石が残されています。福山城跡は、史跡として国の重要文化財に指定されています。

角力取山古墳

一辺三六m×三八m高さ約五mの方墳で、吉備地方では最大規模です。およそ一五〇年前に地域の首長墓として造られました。相模の土俵を思わせる台地であるところから角力取山(すもうとりやま)古墳と名付けられました。古墳上の大松は、樹齢約四五〇年の風雪に耐え、歴史の重みをもみせる樹形の美しいクマツです。

軽部神社

延宝六年(一六七八)に移設建立。その昔、境内には樹齢四〇〇年の「重乳根(たぢね)の桜」と呼ばれる見事な枝垂桜があったことから、乳神様としてまつてうる人が多くなつたとか。安産や母乳の出を願う女性が後を絶たず、手作りの「おっぱい絵馬」が数多く奉納されています。

まちかど郷土館

総社市まちかど郷土館は、明治四十二年に建築された旧総社警察署の建物です。多角形の楼閣風の入口が明治の雰囲気を感じさせています。一階には、市内の歴史が一目でわかる「歴史コーナー」や「古民具」が、「二階には、「備中完栗」「阿曾の鎧物」「い草・壁表」などの伝統産業が展示されています。

旧山陽道

国分寺前の広い道を少し南へ入ったところにある狭い道で、以前の山陽道です。都と大宰府を結ぶために、古くから開かれた重要な交通路で、城下町岡山から吉備津、山手、三輪を経て高梁川に至るこの道沿いには、かつて門前町や宿場町が栄えました。

レンタサイクル

岡山駅から総社駅までを結ぶ全長約25kmのサイクリングロード。のどかな田園の中を走れば、古墳や社寺が無数に点在する吉備路の見どころのほとんどを巡ることが出来ます。



◆4月29日	吉備路れんげまつり
◆5月上旬	春の吉備路幻想の響宴
◆7月中旬	高岡やまびきまつり
◆7月下旬	清流まつり
◆8月上旬	総社市民まつり 雪舟フエスタ
◆11月中旬	温羅まつり
◆2月下旬	井山宝福寺ライトアップ そっしや吉備路マラソン

観光ガイド(無料) 一部有料

●吉備路ボランティア観光ガイド協会
総社市三須825-1(吉備路観光案内センター内) (0866)92-1211



- 吉備路観光案内センター
総社市三須825-1 (0866)92-1211
- 総社駅前観光案内所
総社市駅前一丁目1番1号 (0866)93-1470
- 国分寺観光案内所
総社市上林1046 (0866)94-3155
- 総社市役所商工観光課
総社市地頭片山17-1 (0866)92-8277



物産品のごあんない

菓子	雪舟もなか、福味天柱
郷土料理	精進料理、玉とうふ
果物・農産物	もも、ぶどう、干両なす、セロリ、いちご スイーツ(クッキー、きびみどり)
地酒	粹府、清音雄町
赤米製品	米、みそ、あまぎけ、まんじゅう、かきもち
きびみどり製品	まんじゅう、アイスクリーム

- 特産品取扱店
- 吉備路観光案内センター
総社市三須825-1 (0866)92-1211
 - 吉備路もてなしの館
総社市宿418 (0866)94-1048
- 精進料理店
- 般若院
総社市井尻野1968-2 (0866)93-1439
 - 金亀
総社市井尻野1958 (0866)92-3056
- ※精進料理はいずれも要予約

